



2020年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2020年2月13日

上場会社名 株式会社 シャルレ

上場取引所 東

コード番号 9885 URL <http://www.charle.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼社長執行役員 (氏名) 奥平 和良

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼執行役員 管理本部長 (氏名) 高田 博祐

TEL 078-792-8565

四半期報告書提出予定日 2020年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	12,481	5.2	486	10.2	501	11.8	230	20.7
2019年3月期第3四半期	13,163	6.4	441	28.4	449	29.3	291	8.9

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	14.58	
2019年3月期第3四半期	18.39	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第3四半期	22,280	19,566	87.8	1,235.59
2019年3月期	22,221	19,483	87.7	1,230.35

(参考)自己資本 2020年3月期第3四半期 19,566百万円 2019年3月期 19,483百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		10.00	10.00
2020年3月期		0.00			
2020年3月期(予想)				10.00	10.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,730	4.7	140	61.5	150	59.8	13	94.2	0.82

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	16,086,250 株	2019年3月期	16,086,250 株
期末自己株式数	2020年3月期3Q	250,408 株	2019年3月期	250,258 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	15,835,928 株	2019年3月期3Q	15,836,090 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。詳細は添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用や所得環境の改善が続く中、各種政策の効果もあり、景気は緩やかな回復が続いているものの、通商問題を巡る動向や英国のEU離脱問題等の海外経済の動向や金融資本市場の変動の影響等が懸念されることから、先行き不透明な状況で推移しました。

国内レディースインナーウェア市場におきましては、個人消費は持ち直しつつも、節約志向や生活防衛意識は依然と根強く、消費税率引き上げによる個人消費の冷え込み懸念など、当社を取り巻く経営環境は厳しさを増しております。

このような環境のもと、当社は、2019年4月より2022年3月期を最終年度とする3か年の中期経営計画を策定し、「シャルレビジネス事業の再生」と「新規事業開発による新たな柱の創造」の2つの基本戦略に基づき、事業改革の促進、業績回復等に向け、シャルレビジネスの環境整備や商品開発体制の見直し等に積極的に取り組んでまいりました。

商品面におきましては、衣料品類では、新定番商品として、スポーツ用のインナーウェアである「スポーツブラジャー・ショーツ」を発売するとともに、数量限定商品として、縫い目やテープなどを使用しないインナーウェアである「ハーフトップ・ショーツ(無縫製)」を発売いたしました。また、ブラジャーを対象とした販売促進キャンペーンである「ブラフェスタ(4月～5月)」を実施したことや、消費税増税前による駆け込み需要が追い風となり、ファンデーション類全体の売上高は前年を大幅に上回りました。アウター類では、共に神戸を拠点とするアパレル企業であるワールドグループと共同開発を行い、両社の強みを活かし、心地よさとデザイン性を融合させた「ウールコート」及び「ショルダーバッグ(2WAY)」を数量限定にて発売し、販売状況は好調に推移しました。また、「シャルレドレッセ」より、秋冬のシーズンに向けたカットソーやパンツを発売しましたが、発売アイテム数を縮小させたことに加え、販売状況が不振であったことにより、アウター類全体の売上高は前年を大幅に下回りました。生活関連商品類では、「冷感敷きパッド」、「冷感ピローパッド」や「あったか掛布団カバー」を数量限定にて発売しましたが、前年にリニューアルをした「シャルレウエルネスピロー」が販売不振となり、売上高は前年を大幅に下回りました。以上、衣料品類全体の売上高は94億2百万円(前年同四半期比5.9%減)と前年を大幅に下回りました。

化粧品類では、「エタリテ オーラマージュ」シリーズに「モリンガエキス」に加え、海藻から抽出した成分を新配合し、リニューアル発売を行い、加えてプロモーション用の販促商品を発売しましたが、化粧品類全体の売上高は18億83百万円(同6.1%減)と前年を大幅に下回りました。

健康食品類では、長崎県の研究機関及び、長崎県立大学、長崎大学、九州大学の研究プロジェクトで開発された製茶法(混合発酵)とお茶の持つ健康成分に着目した当社との産官学の共同開発商品である「びわの葉入りまるごと発酵茶」に内臓脂肪を減らす機能が確認され、機能性表示食品として発売し、販売状況は好調に推移しました。また、100%手摘みのモリンガの青葉をまるごと配合した「輝く太陽のモリンガ青汁」を新たに発売し、販売状況は好調に推移したことにより、健康食品類全体の売上高は8億40百万円(同7.8%増)となり、前年を大幅に上回りました。

営業施策面におきましては、ビジネスメンバーの販売活動の活性化を目的とした「シャルレスマイルプロジェクト2020」において、4月よりメイト会員及び一般消費者を対象としたプレゼント企画である「ワクワクキャンペーン(4月～5月)」を実施するとともに、前述の「ブラフェスタ(4月～5月)」を実施しました。いずれのキャンペーンにおいても、顧客との接点強化を目的に、新規顧客の獲得に積極的に取り組んでまいりましたが、新規メイト育成人数は伸長せず、前年を大幅に下回りました。なお、9月より「チャレンジコンテスト2019(9月～11月)」を実施しましたが、ビジネスメンバーの活動が消費税増税後に鈍化したことにより、コンテスト入賞者数は伸び悩み、期間売上高は前年を下回りました。

通信販売の「シャルレダイレクトサービス」におきましては、新規会員の獲得及び既存会員のリピート率の向上を目的とした販促キャンペーン等を実施しましたが、消費税増税の駆け込みを超える反動の影響もあり、受注件数は伸び悩み、売上高は前年を下回りました。

新規事業におきましては、当社の第2の柱となる事業を継続的に探索しております。

これらの結果、当第3四半期累計期間の経営成績につきましては、売上高は124億81百万円(同5.2%減)となりました。利益面につきましては、売上高は減少したものの、販売費及び一般管理費の減少により営業利益は4億86百万円(同10.2%増)、経常利益は5億1百万円(同11.8%増)、四半期純利益は営業体制の見直しに伴い、支店を2拠点に統合することで特別損失(支店閉鎖損失1億円)が発生し2億30百万円(同20.7%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

総資産は、現金及び預金の増加7億53百万円、商品の減少6億41百万円等により、前事業年度末に比べ58百万円増加して222億80百万円となりました。

負債は、買掛金の減少2億44百万円、未払法人税等の増加2億6百万円、未払金の増加74百万円等により、前事業年度末に比べ24百万円減少して27億13百万円となりました。

純資産は、剰余金の配当1億58百万円、四半期純利益2億30百万円等により、前事業年度末に比べ82百万円増加し、195億66百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は、前事業年度末に比べ、0.1ポイント上昇し87.8%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年1月31日に公表しました業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,515	13,268
売掛金	89	101
有価証券	72	71
商品	3,821	3,179
貯蔵品	40	50
その他	185	122
貸倒引当金	△9	△7
流動資産合計	16,714	16,785
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,047	1,011
土地	907	907
その他(純額)	786	565
有形固定資産合計	2,740	2,485
無形固定資産		
ソフトウェア	778	749
その他	11	10
無形固定資産合計	789	759
投資その他の資産		
投資有価証券	434	439
前払年金費用	954	968
繰延税金資産	358	421
その他	235	424
貸倒引当金	△5	△4
投資その他の資産合計	1,976	2,248
固定資産合計	5,507	5,494
資産合計	22,221	22,280

(単位:百万円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	663	419
未払金	817	892
未払法人税等	26	232
賞与引当金	223	72
その他	219	377
流動負債合計	1,950	1,993
固定負債		
売上割戻引当金	189	190
退職給付引当金	250	232
その他	347	296
固定負債合計	787	719
負債合計	2,737	2,713
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,600	3,600
資本剰余金	4,897	4,897
利益剰余金	11,131	11,203
自己株式	△131	△131
株主資本合計	19,497	19,570
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△13	△3
評価・換算差額等合計	△13	△3
純資産合計	19,483	19,566
負債純資産合計	22,221	22,280

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	13,163	12,481
売上原価	7,005	6,667
売上総利益	6,158	5,814
販売費及び一般管理費	5,716	5,327
営業利益	441	486
営業外収益		
受取利息	0	0
有価証券利息	-	5
雑収入	10	12
営業外収益合計	10	18
営業外費用		
支払利息	1	1
雑損失	1	1
営業外費用合計	2	3
経常利益	449	501
特別利益		
投資有価証券売却益	2	-
特別利益合計	2	-
特別損失		
固定資産除却損	0	4
支店閉鎖損失	-	100
その他	-	2
特別損失合計	0	108
税引前四半期純利益	451	393
法人税、住民税及び事業税	146	225
法人税等調整額	14	△63
法人税等合計	160	162
四半期純利益	291	230

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。